

2018年7月31日
西日本旅客鉄道株式会社

2019年3月期第1四半期決算電話会議 主なQ&A

- Q 平成30年7月豪雨による今期の運輸収入への影響額の算出根拠は。また、来期の影響額は。
- A 山陽新幹線・近畿圏は、数日間大幅に運休した直接的な減収額を算出。その他在来線は、現在の復旧見込みが計画通り進んだ場合の影響額を推計し、それぞれを合算して算出。来期については、運休区間が限定的であるため軽微と認識。
- Q 平成30年7月豪雨により復旧に1年以上要するローカル線区もあるが、復旧に対する考え方は。
- A 今回の被災は非常に広範囲で、被災状況も様々だが、全力を挙げて早期復旧に努める所存。ただし、激甚化する自然災害の脅威に対応すべく、治山・治水事業など自治体等関係者との協議が必要な箇所もあるため、運転再開まで一定の時間を要する。
- Q 近畿圏の基礎トレンド対前年99.9%をどう評価しているか。
- A 期首計画では基礎トレンドを対前年100.0%で計画しており、1Q実績は99.9%であったことから、概ね計画通りと認識。近畿圏においては、地震、豪雨等の影響があるものの、基礎トレンドについては概ね想定通りに推移。
- Q 修繕費の進捗は計画通りか。
- A 計画通り進捗。修繕費の経費執行は下期に偏る傾向があり、例年と同様の動き。
- Q 不動産賃貸販売・SCサブセグメントが増益にも関わらず、不動産業が減益の理由は。
- A サブセグメントは、個社ベースの営業利益の単純合算であり、セグメント内消去やのれんの償却等の連結調整を行った結果である不動産セグメント計とは一致しない。

以上